

Disaster Medical Assistance Team

一人でも多くの命を助けたい

ディーマット  
災害の最前線に立つ「DMAT」 その使命と願い

DMAT（災害派遣医療チーム）とは、医師、看護師、業務調整員（その他の医療職や事務職員）で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で、おおむね48時間以内に活動できるように専門的な訓練を受けた医療チームです。

1995年に発生した阪神・淡路大震災の経験を教訓に発足したDMATは、2007年の新潟県中越沖地震以降、数々の災害現場で活動しており、2018年の西日本豪雨では、愛媛、広島、岡山の3県に、各地から100以上のチームが派遣され、多くの命を救いました。

DMATの派遣に協力する意思を持ち、厚生労働省または都道府県に指定された医療機関は「DMAT指定医療機関」と呼ばれ、本市では四国中央病院とHITO病院が指定されています。県内11市のうち、2つのDMAT指定医療機関があるのは、本市と松山市だけです。

今回は、両院のDMATリーダーから、それぞれの活動に懸ける思いを伺いました。



HITO 病院  
DMAT

Leader 吉岡勇氣 医師

当院は、本年7月にDMAT指定医療機関の指定を受けました。全国各地で発生する大規模災害への対応はもちろんですが、市民の皆さまの安心と安全を守るため、地域の中核病院として、皆さまの「生きる」を支える活動を行ってまいります。

また、当院は市内で唯一の免震構造の病院です。大規模地震発生時には、免震構造である利点を活かし、多くの傷病者の受け入れをスムーズに行えるよう、日頃から地元医師会や行政、そして地域の防災組織の皆さまと連携し、医療体制の充実を図ってまいります。



建物地下に設置された免震装置



四国中央病院  
DMAT

Leader 小林大 医師

当院は、2011年にDMAT指定医療機関の指定を受けており、これまで2016年の熊本地震や本年1月の能登半島地震の発生時に、避難所アセスメントや臨時診療所開設などの活動を行ってきました。

地域の中核病院、そして市内唯一の災害拠点病院である当院は、南海トラフ地震などの大規模災害発生時に、被災者の受け入れだけでなく、DMATの参集拠点や活動拠点としての役割を担います。今後も本市はもちろん、隣県からの被災者受け入れを想定した訓練やシミュレーションを行い、来たるべき日に備えてまいります。



熊本地震で被災者の健康チェックをする隊員